

# 本題への橋渡し： 「遠くの森」から「自社の経営リスク」へ

山ノ下 麻木乃

公益財団法人地球環境戦略研究機関

生物多様性と生態系サービスユニット

**IGES**

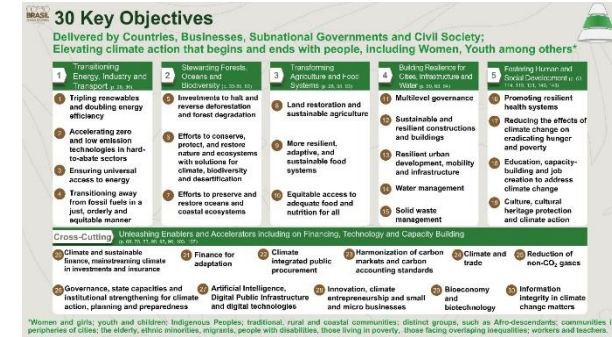
Institute for Global  
Environmental Strategies

[www.iges.or.jp](http://www.iges.or.jp)

# COP 30議長国ブラジルからのメッセージ 「ネイチャー COP」 「実施のCOP」

詳細はIGESCOPEセミナー（録画）を！  
<https://www.iges.or.jp/jp/projects/cop30>

- 自然分野について
  - 自然・生態系の保全、保護、回復への取り組み促進
  - バイオエコノミーの推進
  - カーボンマーケット整備
  - テクノロジー...
- 森林伐採よりも森林が存在していることに価値を (Standing forests are worth more than felled ones)
  - バイオエコノミーの推進
  - 「生態系保全に投資する企業が損をしたりしない社会」に向かうというシグナル。
  - これまで企業は、サステナビリティにコストをかけても評価されないかも？というリスク感じていた。
  - 方向性が国際的に明確になる



森林を維持しながら価値を生む

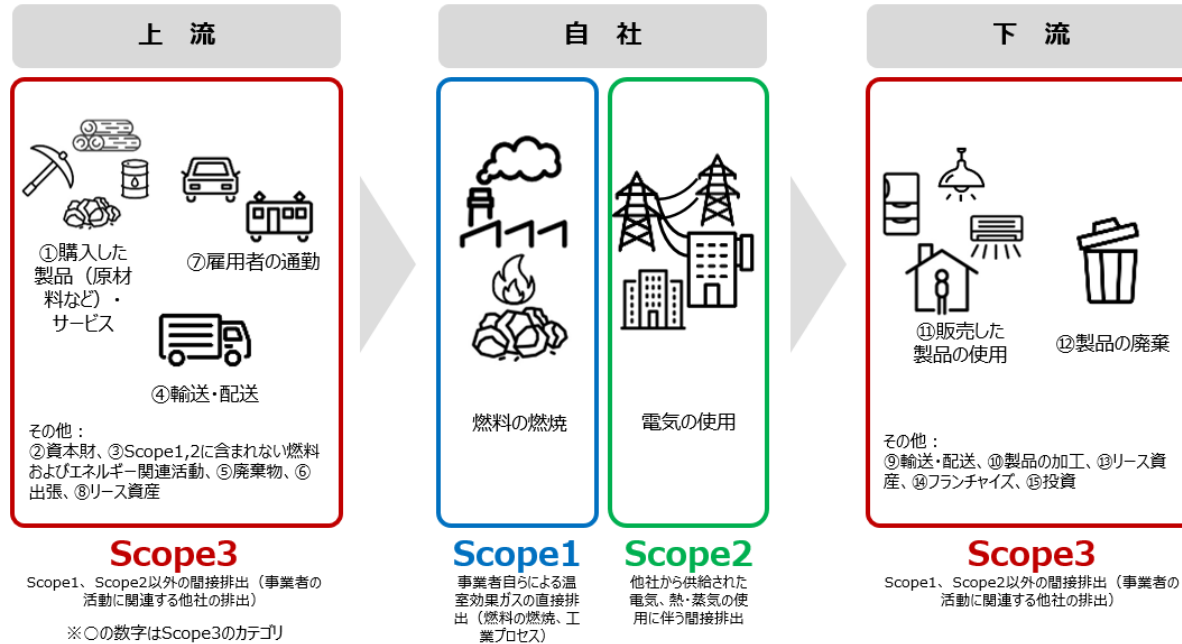
# サプライチェーン関連の企業への要求 (規制・自主的取組)

- 木材の合法性確認（デューデリジェンスDD）要求
  - その木材は合法的に生産されているか？ 違法伐採木材の排除
  - クリーンウッド法、EU、米国、オーストラリア、韓国
- 森林破壊を伴って生産された農作物の輸入禁止：EUDR
- サプライチェーンのサステナビリティ（人権含む）：CSRD, CSDDD
- 上場企業の有価証券報告書における**スコープ3排出量**開示の義務化
- GX-ETS始動
- 自主的取組ガイダンス：TCFD, SBTi（**排出削減**）, TNFD, SBTnature（**自然・生物多様性**）, GRI, ビジネスと**人権**に関する指導原則（UNGPs） etc.

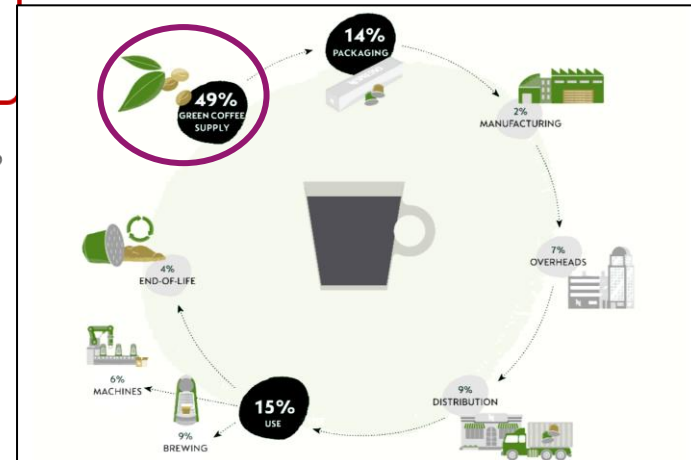


色々あって大変。関係性はあるの？よくわからない。。。。

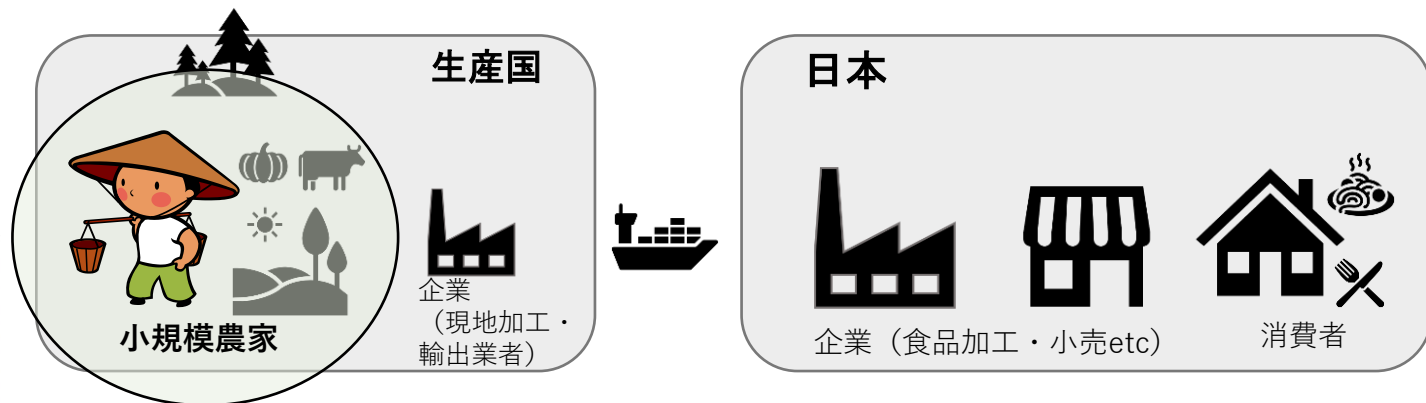
# サプライチェーン排出



コーヒーカップ1杯のライフサイクルにおける排出の割合 (Nespresso, 2021)



# スコープ3では途上国の小規模農家の行動変容が重要



## ● 輸入農作物のスコープ3 排出

- 途上国の小規模農家が農地を管理、生産、多かれ少なかれサステナビリティ課題（大きな排出）がある
- 輸入農産物・資源を活用する日本企業の課題

## ● サプライチェーンアプローチ

- これまで「どこか遠くの国の問題だった森林減少」
  - その国が対策をとって止めるべき。国際協力を通じて支援します。
- 「小規模農家がサステナブルに生産してくれなければ、日本の企業にサステナブルな原材料は供給されない」
  - 「自社とつながっている（社運にかかわるかもしれない）生産地」

# サステナブル（持続可能）な原材料調達はビジネス課題

- 量、価格が安定した原材料調達は不可欠だが、困難になってきた

- 「気候が変動すると桶屋は損害を被る」

- 原因

- 気候変動
- 農地・生態系サービスの劣化
  - これまでの粗放な農法、自然生態系の開発・破壊
- 地政学的問題
- 需要拡大による競争激化
- 生産者の農業離れ

- レジリエントなサプライチェーン構築のための対策オプション

- ①よりよい（安定的な）他の生産地を見つける？
- ②既存の調達地へのエンゲージメント（生産地の変革にコミットする）？



りの高値を付け  
ロイタ

新し、砂糖の  
ばつが懸念さ

先物は1ポ  
引を終了し

供給が稀るとの観  
4年 ロイタ

安の23. 3

# よりよい（安定的な）他の生産地はもうないのかも？

2024年の年平均と1991-2020年平均との比較 (WMO 2025)

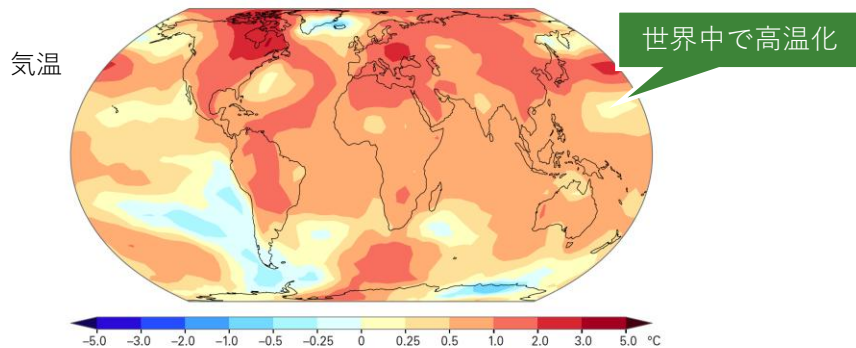


Figure 9. Annual average temperature anomalies relative to the 1991–2020 average. The values shown are global temperature datasets.

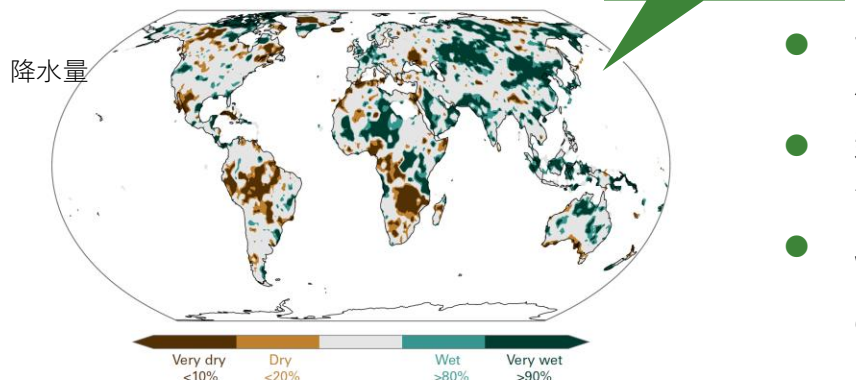
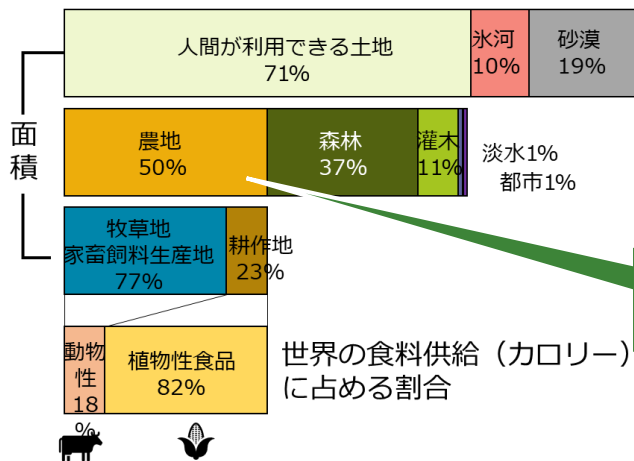


Figure 10. Annual precipitation 2024 expressed as percentiles of the 1991–2020 distribution. Brown areas are unusually dry. Green areas are unusually wet.

Source: Data from Global Precipitation Climatology Project (GPCP)

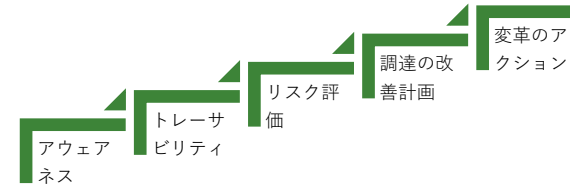
世界の陸地面積合計149百万km<sup>2</sup>



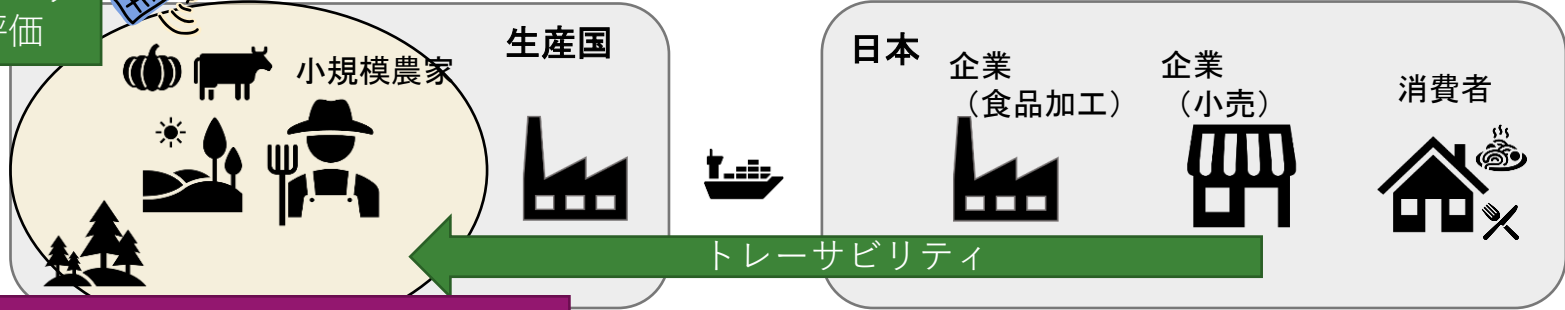
半分をすでに農地に転用し食料を生産

- 世界中で気温が上昇し、降水量とパターンが変化し、農業生産に影響がある
- 新たな農地開発（サプライチェーン探索）は困難。これ以上の自然破壊するべきではない
- 既存の生産地（サプライチェーン）がサステナブル・レジリエントに生産を続けられるための変革、そのための協働（エンゲージメント）が必要

# トレーサビリティ確保・モニタリング・リスク評価からアクションの段階へ



モニタリング  
リスク評価



生産現場の変革のためのアクション

- トレーサビリティを明らかにする
  - とても重要なファーストステップ (サプライチェーンつながりの明確化)
  - 指標の開発・モニタリング技術開発は現地の課題を把握しリスクを評価するための基礎
- 調達の改善方法
  - 認証製品調達したい (情報開示対応が主導)、しかし認証製品の数量は限定的

- どうしたら現場を変えることができるのか？
  - 原材料安定調達 (ex食品加工業) とリンクして考えられる
  - サプライチェーンとカーボンクレジットの接点とは？
    - カーボンクレジット創出のための現地のアクションとサステナブルなサプライチェーン実現のためのアクションは共通
  - 原材料調達はしていないが、サプライチェーンでつながる企業(ex 小売業)のできることは？
  - そもそも生産現場とサプライチェーンでつながっていない企業は何かできる？

教えて、末次さん！！